

(新) 臨床研修プログラム

(1) 研修の目標	基本的目標	医道審議会（医師分科会医師検討部会）でまとめられている「期待される医師像」、「臨床研修の意義」などの実現を目指し、創意工夫による研修を実践させる。特にチーム医療の機能を向上させ、スタッフ間のコミュニケーションをとりながら、常に患者の目線で診療ができるような能力を習得させる。																														
	基本的方法	地方の中核病院であることから、他科との連携、他病院や診療所との地域連携を踏まえ、広範で総合的な診療ができる実践的な診療を習得させる。																														
(2) 研修計画	<p>研修方式は2年間ローテーション研修である。内科、救急部門、外科、小児科産婦人科、精神科、地域医療を必修科目とする。</p> <p>地域医療は2年次に行う。残りの週は選択科目から選ぶ。</p> <p>4回/月の日当直を12月行うことで救急4週に置き換える。</p> <table border="1" data-bbox="403 689 1345 925"> <tr> <td rowspan="2">1年次・2年次</td> <td>内科</td> <td>救急部門</td> <td>外科</td> <td>小児科</td> <td>産婦人科</td> <td>精神科</td> <td>選択科目</td> </tr> <tr> <td>24週</td> <td>12週</td> <td>4週</td> <td>4週</td> <td>4週</td> <td>4週</td> <td>48週</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2年次</td> <td colspan="2">地域医療</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td colspan="2">4週</td> <td colspan="5"></td> </tr> </table> <p>注意：精神科については、岐阜大学附属病院または聖十字病院で行う。</p> <p>麻酔科研修については原則中津川市民病院にて行うが必要に応じて愛知医科大学附属病院でも可。</p> <p>内分泌内科は名古屋大学医学部附属病院または岐阜大学附属病院で行う。</p> <p>血液内科は岐阜大学附属病院で行う。産婦人科は岐阜大学附属病院でも可。</p> <p>呼吸器内科は原則中津川市民病院で行うが必要に応じて名古屋大学医学部附属病院でも可。</p> <p>なお、内科・外科の研修中にプログラムに盛り込まれた経験すべき研修項目がそれ以外の専門診療科に属する場合も、内科・外科以外の診療科で研修する場合は適当と思われた場合は、可能な範囲で専門診療科を一時的に変更することができる。地域医療研修については、国保坂下診療所・国保蛭川診療所・国保川上診療所・国保上矢作病院から選択し行う。病理研修については名古屋大学医学部附属病院にて行う。</p> <p>中津川市民病院で研修可能な科目は原則として自院で研修を行う。</p>		1年次・2年次	内科	救急部門	外科	小児科	産婦人科	精神科	選択科目	24週	12週	4週	4週	4週	4週	48週	2年次	地域医療							4週						
1年次・2年次	内科	救急部門		外科	小児科	産婦人科	精神科	選択科目																								
	24週	12週	4週	4週	4週	4週	48週																									
2年次	地域医療																															
	4週																															
(3) 研修記録	指導医は各科の指導に当り、行動目標や経験目標などの共通する項目の達成具合をチェックするとともに、各々の診療科でのプログラム内容の達成度を評価する。各科のプログラム責任者は研修医の達成度を評価する一方で、研修管理委員長に逐次報告し、研修期間における進行度合いを全体の計画の中で調整する。																															
(4) 研修評価	各科の指導医は、指導の現場で研修医の達成度を遅滞なく評価する。研修医側でも項目の研修が経過した時点で自己評価をし、指導医とプログラム内容達成度を評価し合う。研修管理委員会は定期的に持ち込まれた研修医の評価を検討し、個々の研修医にあったプログラム内容の調整を行う。研修評価に伴う研修修了については病院長が個々の研修医の評価に伴い、研修が完了したことを認めるとき研修修了証書を発行する。																															
(5) 研修体制	各診療科の指導医は専従する専門領域での指導に当り、研修の度合達成度を考慮して、初歩的なものから順に実際に研修医が自分で行うよう指導する。指導医はその科の上級医師と検討して徐々に研修のランクを上げていく。各科で解決困難な問題が生じた場合は、研修管理委員会が代わって問題の解決に当る。																															